

令和4年度おみたまふるさと塾 グループA

【メンバー】

郡司 一巳（あかるい下吉影をつくる会）

磯辺 寛・郡司 恵美子（住みよい堅倉地区をつくる会）

宮川 富寿子（こころふれあう羽鳥の会）

田上 利男（玉小学区コミュニティ）

1. コミュニティとは？【ふるさと塾1回目】

言葉のイメージを考え、話し合いました！

【コミュニティ】

■抽象イメージ

助け合えるつながり、協力しあえる仲間、新たな出会い

■具体イメージ

草刈りやごみ拾い(環境美化活動)・防災訓練(防災)・防犯パトロール(防犯)
地域の見守り(福祉)・世代間交流イベント(地域活性化)

まとめ

ヒトとヒトをつなげ、
防災・防犯・福祉・環境美化・地域活性など
様々な分野で助け合い、
より住みやすいまちづくりを実現

2.コミュニティの課題【ふるさと塾1回目】

話し合いの中で課題が見えてきました！

大きく分け、「ヒト」・「企画」の課題

ヒト

- 担い手不足(一部役員の負担大)
- 若者や学生の参加が少ない

企画

- 企画がいつも同じ(マンネリ化)
- 新しい発想が生まれにくい

3.理想のコミュニティ【ふるさと塾2回目】

理想のコミュニティについて共有しました！

- 幅広い世代が参加、参画できる！
- 新たなことに挑戦できる！
- 普段から助け合い、協力しあえる！
- 自然と人が集まってくる！
- 相互に生きがいをもつことができる！
- 小美玉市が盛り上がる！

4.理想に向かう羅針盤【ふるさと塾2回目】

理想に近づくために何が必要か考えました！

『若者への理解』

- ① 若者の地域参加
→まずは**情報交換会**
- ② 若者の**チャレンジ**を
バックアップ
- ③ **コミュニティの大切さ**
を学校で**説明会**
- ④ 地域と関わるキッカケ
→学校との**連携事業**

『情報の発信』

- ① まずは知ってもらう
- ② **HPやSNS**の活用
- ③ 使い方が分からない
→**若い世代から教わる**
=新たなつながりづくり
- ④ **まちの歴史や文化**を
発信すると面白い

5.まとめ

話し合いをとおして、様々な気づきがありました！

- 若者との**考えや価値観の違い**を実感
⇒定期的な**意見交換**の大切さ
- まずは、課題を発見して、
みんなで考える場をつくりたい

令和4年度おみたまふるさと塾 グループB

【メンバー】

後藤 敏彦（元気な玉里北区をつくる会）

佐川 孝（あかるい下吉影をつくる会）

中山 恵弘（玉小学区コミュニティ）

井坂 真理子（住みよい堅倉地区をつくる会）

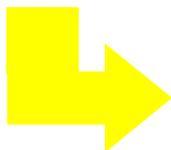
藤田 友子・菊池 清貴（こころふれあう羽鳥の会）

1. コミュニティが取り組むこと

【ふるさと塾1回目】

メリット

- ① 災害発生時に役に立てるように
- ② 地域活性化を図り、地域の課題解決に
- ③ 日常の交流の場、文化を継承、次の担い手を育てる
- ④ 情報の発信&共有、年代を超えた活動、助け合い



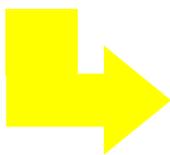
1人では解決できないことも、普段から
協力することで、「**メリット**」が拡大

1.コミュニティが取り組むこと

【ふるさと塾1回目】

デメリット

- ① コミュニケーション不足による行政区加入率低下
- ② 課題解決における仕組みの急激な変更
- ③ 若者の減少と関心の低下、高齢化
- ④ プライバシー意識の低さ、おせっかい



新たな取り組み

スマホ教室などのIT関係

1.コミュニティが取り組むこと

【ふるさと塾1回目】

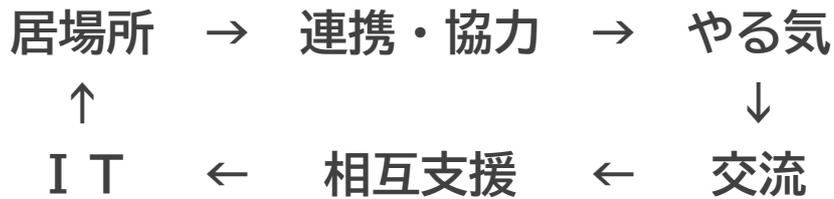
メリット・デメリットの深掘り
によって気づいた点

⇒ **今抱える地域共通の課題**

2.私の理想のコミュニティ

【ふるさと塾2回目】

気づいた点



地域をまわすエンジン

2.私の理想のコミュニティ

【ふるさと塾2回目】

私の理想に向かう羅針盤

居場所づくり

(集会所、公民館、空き家の利用など共通のスペース)

仕組みシステム

(企業協力、イベント開催、多様化への対応、Wi-Fi導入、災害対応など)

情報発信

(SNS、説明会の開催、PTAや保護者への情報提供、困りごとの共有など)

イベント

(子育て世代を巻き込んだ、気軽な、つながり重視、課題解決型など)



2.私の理想のコミュニティ

【ふるさと塾2回目】

私の理想に向かう羅針盤

絆から絆へ
ほだし きずな